

## 【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	2023年2月9日
【四半期会計期間】	2022年度第3四半期（自 2022年10月1日 至 2022年12月31日）
【会社名】	NSユニテッド海運株式会社
【英訳名】	NS UNITED KAIUN KAISHA, LTD.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 谷水 一雄
【本店の所在の場所】	東京都千代田区大手町一丁目5番1号
【電話番号】	03(6895)6407
【事務連絡者氏名】	経理グループリーダー 小林 勝利
【最寄りの連絡場所】	東京都千代田区大手町一丁目5番1号
【電話番号】	03(6895)6407
【事務連絡者氏名】	経理グループリーダー 小林 勝利
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

## 第一部【企業情報】

### 第1【企業の概況】

#### 1【主要な経営指標等の推移】

回次	2021年度 第3四半期連結 累計期間	2022年度 第3四半期連結 累計期間	2021年度
会計期間	自2021年 4月1日 至2021年 12月31日	自2022年 4月1日 至2022年 12月31日	自2021年 4月1日 至2022年 3月31日
売上高 (百万円)	144,416	196,863	195,941
経常利益 (百万円)	19,608	31,394	26,606
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	15,824	25,358	23,582
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	16,475	25,493	25,190
純資産額 (百万円)	109,471	135,196	118,189
総資産額 (百万円)	285,217	282,477	274,871
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	671.45	1,076.02	1,000.67
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	38.4	47.9	43.0

回次	2021年度 第3四半期連結 会計期間	2022年度 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自2021年 10月1日 至2021年 12月31日	自2022年 10月1日 至2022年 12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	301.49	251.69

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額は、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

#### 2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

## 第2【事業の状況】

### 1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。

また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

### 2【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

#### (1) 経営成績の状況

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	増減額(増減率)
売上高	144,416	196,863	52,447 (36.3%)
営業利益	20,089	29,957	9,868 (49.1%)
経常利益	19,608	31,394	11,786 (60.1%)
親会社株主に帰属する四半期純利益	15,824	25,358	9,534 (60.2%)
為替レート(円/US\$)(9ヶ月平均)	110.56	135.33	24.77 (22.4%)
燃料油価格(US\$/MT)(9ヶ月平均)	471	670	199 (42.2%)

適合油を含む全油種平均価格を基に算出

当第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日までの9ヶ月間)の売上高は1,968億63百万円(前年同期比36.3%増)、営業利益は299億57百万円(前年同期は200億89百万円の営業利益)、経常利益は313億94百万円(前年同期は196億8百万円の経常利益)、親会社株主に帰属する四半期純利益は253億58百万円(前年同期は158億24百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益)となりました。

当第3四半期連結累計期間の各セグメントにおける営業の概況は、次の通りです。

#### 外航海運事業

当セグメントにおいて、ドライバルクにつきましては、中国のゼロコロナ政策や、新型コロナウイルス感染症に対する港湾の検疫体制緩和に伴う滞船の解消等が市況の下押し要因となり、当期の平均用船料は全船型において前年同期を下回りました。ケープ型撒積船(18万重量トン型)市況は、7月までは堅調に推移しましたが、8月以降軟化し、一時は主要5航路平均用船料が3千ドルを下回るまで下落しました。その後も市況の回復は限定的となり、4~12月平均は約1万7千ドルと、前年同期を大きく下回りました。パナマックス型以下の中小型撒積船(2~8万重量トン型)は、ロシア・ウクライナ情勢を背景に石炭調達先がロシアからシフトしたことによる輸送トンマイルの増加や、穀物やマイナーバルクの堅調な荷動きが市況を下支えし、安定した推移となりました。また、VLGC(大型LPG運搬船)につきましては、米国からのLPG輸出量増加が船腹需給を引き締め、市況は高水準で推移しました。

このような状況下、長期契約による安定収益に加え、期中に進行した円安が収益を大きく押し上げ、外航海運事業の売上高は1,771億19百万円(前年同期比40.0%増)、セグメント利益(営業利益)は286億73百万円(前年同期は190億5百万円のセグメント利益)となりました。

#### 内航海運事業

当セグメントにおいて、ドライバルクにつきましては、鉄鋼関連では、鋼材の輸送量は前年同期比でほぼ横ばいとなりましたが、自動車生産における半導体の供給制約の影響を受け鉄鋼原料の輸送量は前年同期比で減少しました。セメント関連貨物は、建設需要の伸びにより輸送量は前年同期比で増加した一方、電力関連貨物につきましては、火力発電所の稼働率低下等を背景に、輸送量は前年同期比で減少しました。タンカーにつきましては、LNG輸送は新規航路における輸送が本格化したことで輸送量は前年同期比で増加し、LPG輸送につきましても効率運航に努めたことで輸送量は前年同期比で増加しました。

このような状況下、内航海運事業の売上高は197億53百万円(前年同期比10.3%増)、セグメント利益(営業利益)は12億82百万円(前年同期は10億70百万円のセグメント利益)となりました。

(2) 財政状態の状況

当第3四半期連結会計期間末における総資産は2,824億77百万円となり、前連結会計年度末比76億6百万円の増加となりました。このうち流動資産は主として現金及び預金の増加により、185億98百万円増加しました。固定資産は主として船舶の減少により109億92百万円減少しました。

負債合計は前連結会計年度末に比べ、94億1百万円減少の1,472億81百万円となりました。流動負債は主として短期借入金の増加により101億53百万円増加しました。固定負債は主として長期借入金の減少により195億54百万円減少しました。

純資産合計は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上と配当金支払の差引による利益剰余金の増加等により、前連結会計年度末に比べ170億7百万円増加し1,351億96百万円となりました。

(3) 会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定

前事業年度の有価証券報告書に記載した「経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析」中の会計上の見積り及び当該見積りに用いた仮定の記載について重要な変更はありません。

(4) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(5) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題について重要な変更はありません。

(6) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間における研究開発費の総額は約28百万円です。

なお、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

### 第3【提出会社の状況】

#### 1【株式等の状況】

##### (1)【株式の総数等】

###### 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	60,000,000
計	60,000,000

###### 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2023年2月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	23,970,679	23,970,679	東京証券取引所 プライム市場	単元株式数 100株
計	23,970,679	23,970,679	-	-

##### (2)【新株予約権等の状況】

###### 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

###### 【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

##### (3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

##### (4)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数 増減数(株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増減 額(百万円)	資本準備金残高 (百万円)
2022年10月1日～ 2022年12月31日	-	23,970,679	-	10,300	-	2,524

##### (5)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

##### (6)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(2022年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしておりません。

## 【発行済株式】

2022年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 404,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 23,523,800	235,238	-
単元未満株式	普通株式 42,379	-	1単元(100株) 未満の株式
発行済株式総数	23,970,679	-	-
総株主の議決権	-	235,238	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が合計600株含まれております。

また、「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数6個が含まれております。

「単元未満株式」の欄には、自己株式が26株含まれております。

## 【自己株式等】

2022年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
N S ユナイテッド海運 株式会社	東京都千代田区大手町 一丁目5番1号	404,500	-	404,500	1.69
計	-	404,500	-	404,500	1.69

(注) 株主名簿上は当社名義となっておりますが、実質的に所有していない株式が200株(議決権の数2個)あります。なお、当該株式数は上記「発行済株式」の「完全議決権株式(その他)」の中に含めております。

## 2 【役員の状況】

該当事項はありません。

## 第4【経理の状況】

### 1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）及び「海運企業財務諸表準則」（昭和29年運輸省告示第431号）に基づいて作成しております。

### 2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、EY新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

## 1【四半期連結財務諸表】

## (1)【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

## 【四半期連結損益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高		
海運業収益及びその他の営業収益	144,416	196,863
売上原価		
海運業費用及びその他の営業費用	120,124	161,926
売上総利益	24,292	34,937
一般管理費	4,203	4,980
営業利益	20,089	29,957
営業外収益		
受取利息	3	10
受取配当金	117	220
持分法による投資利益	-	2
為替差益	872	1,465
デリバティブ利益	80	572
その他営業外収益	181	81
営業外収益合計	1,253	2,350
営業外費用		
支払利息	1,025	888
持分法による投資損失	5	-
デリバティブ損失	687	4
その他営業外費用	16	20
営業外費用合計	1,734	913
経常利益	19,608	31,394
特別利益		
固定資産売却益	363	332
投資有価証券売却益	-	77
特別利益合計	363	410
特別損失		
減損損失	-	994
特別損失合計	-	994
税金等調整前四半期純利益	19,971	30,810
法人税等	4,147	5,453
四半期純利益	15,824	25,358
親会社株主に帰属する四半期純利益	15,824	25,358

## 【四半期連結包括利益計算書】

## 【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	15,824	25,358
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21	74
繰延ヘッジ損益	682	161
為替換算調整勘定	12	16
退職給付に係る調整額	73	18
持分法適用会社に対する持分相当額	34	82
その他の包括利益合計	651	135
四半期包括利益	16,475	25,493
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	16,475	25,493

## ( 2 ) 【四半期連結貸借対照表】

( 単位 : 百万円 )

	前連結会計年度 (2022年 3 月31日)	当第 3 四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	22,265	46,099
受取手形、営業未収金及び契約資産	29,084	29,862
有価証券	9,000	-
棚卸資産	12,148	13,736
前払費用	4,110	5,560
デリバティブ債権	839	453
その他流動資産	3,145	3,483
貸倒引当金	31	32
流動資産合計	80,561	99,160
固定資産		
有形固定資産		
船舶 (純額)	181,526	169,169
建物 (純額)	297	283
土地	397	397
建設仮勘定	2,218	2,857
その他有形固定資産 (純額)	110	159
有形固定資産合計	184,548	172,865
無形固定資産	1,909	1,676
投資その他の資産		
投資有価証券	3,945	3,845
長期貸付金	24	11
繰延税金資産	1,579	2,549
退職給付に係る資産	1,743	1,810
その他長期資産	562	561
投資その他の資産合計	7,853	8,776
固定資産合計	194,310	183,317
資産合計	274,871	282,477

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び営業未払金	12,315	12,674
短期借入金	15,323	25,099
リース債務	4,380	4,120
未払金	91	305
未払費用	190	321
未払法人税等	4,991	3,599
契約負債	3,288	5,104
賞与引当金	627	115
役員賞与引当金	68	19
デリバティブ債務	1,167	554
その他流動負債	5,715	6,397
流動負債合計	48,155	58,308
固定負債		
長期借入金	103,991	83,487
繰延税金負債	643	808
特別修繕引当金	3,761	4,533
退職給付に係る負債	131	145
その他固定負債	0	0
固定負債合計	108,527	88,973
負債合計	156,682	147,281
純資産の部		
株主資本		
資本金	10,300	10,300
資本剰余金	17,181	17,181
利益剰余金	90,527	107,400
自己株式	996	997
株主資本合計	117,013	133,885
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	1,373	1,299
繰延ヘッジ損益	240	79
為替換算調整勘定	61	5
退職給付に係る調整累計額	105	87
その他の包括利益累計額合計	1,177	1,312
純資産合計	118,189	135,196
負債純資産合計	274,871	282,477

## 【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
減価償却費	13,281百万円	13,363百万円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

## 1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月28日 定時株主総会	普通株式	1,178	50	2021年3月31日	2021年6月29日	利益剰余金
2021年10月29日 取締役会	普通株式	2,238	95	2021年9月30日	2021年12月6日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

## 1. 配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月28日 定時株主総会	普通株式	4,478	190	2022年3月31日	2022年6月29日	利益剰余金
2022年10月31日 取締役会	普通株式	4,006	170	2022年9月30日	2022年12月5日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間末後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	外航海運事業	内航海運事業	計				
売上高							
顧客との契約 から生じる収 益	126,512	17,905	144,416	-	144,416	-	144,416
外部顧客への 売上高	126,512	17,905	144,416	-	144,416	-	144,416
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	6	6	275	282	282	-
計	126,512	17,911	144,422	275	144,698	282	144,416
セグメント利益	19,005	1,070	20,076	11	20,086	3	20,089

- (注) 1. 「その他」の区分には、情報サービス業等を含んでおります。  
 2. セグメント利益の調整額3百万円は、セグメント間取引消去額であります。  
 3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期連結累計期間(自2022年4月1日至2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注3)
	外航海運事業	内航海運事業	計				
売上高							
顧客との契約 から生じる収 益	177,119	19,744	196,863	-	196,863	-	196,863
外部顧客への 売上高	177,119	19,744	196,863	-	196,863	-	196,863
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	-	9	9	278	287	287	-
計	177,119	19,753	196,872	278	197,150	287	196,863
セグメント利益	28,673	1,282	29,955	0	29,955	2	29,957

- (注) 1. 「その他」の区分には、情報サービス業等を含んでおります。  
 2. セグメント利益の調整額2百万円は、セグメント間取引消去額であります。  
 3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「内航海運事業」セグメントにおいて、船舶について帳簿価額を回収可能価額まで減額し、特別損失として減損損失を計上しています。

なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間において994百万円です。

## (収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、「注記事項(セグメント情報等)」に記載のとおりであります。

## (1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	671.45円	1,076.02円
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額 (百万円)	15,824	25,358
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純 利益金額(百万円)	15,824	25,358
普通株式の期中平均株式数(千株)	23,567	23,566

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

## (重要な後発事象)

該当事項はありません。

## 2【その他】

2022年10月31日開催の取締役会において、当期中間配当に関し、次のとおり決議いたしました。

(イ) 配当金の総額.....4,006百万円

(ロ) 1株当たりの金額.....170円00銭

(ハ) 支払請求の効力発生日及び支払開始日.....2022年12月5日

(注) 2022年9月30日現在の株主名簿に記載又は記録された株主に対し、支払いを行いました。

**第二部【提出会社の保証会社等の情報】**

該当事項はありません。

## 独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年2月9日

NSユナイテッド海運株式会社

取締役会 御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 石田 勝也

指定有限責任社員  
業務執行社員 公認会計士 山本 高揮

### 監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているNSユナイテッド海運株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結貸借対照表及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、NSユナイテッド海運株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

### 監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

### 四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

### 四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・ 継続企業の前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が

適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。

- ・ 四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・ 四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。  
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。